

毎日、「危険な暑さ」という聞きなれない言葉で表現されている猛暑が続きます。みなさま、くれぐれもご自愛ください。
現在会員登録数 3,386 人さま。次回は9月1日に特別号 NO.5、9月19日にNO.121を発行の予定です。／

＋-----◇◆◇ 目次 ◇◆◇ -----＋

【1】お知らせ

【2】コラム

《1》この本読んだ？

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

《3》子どもの本の珠玉のことば

《4》行って来ました！

【3】全国のイベント紹介

【4】プレゼント

■-----■

【1】お知らせ

■-----■

● 「第37回 日産 童話と絵本のグランプリ」作品募集

アマチュア作家を対象とした創作童話と絵本のコンテストです。構成、時代などテーマは自由で、子どもを対象とした未発表の創作童話、創作絵本を募集しています。締め切りは10月31日（土）です。 詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/07_com-con/02_nissan/index.html#37boshu

● 研究紀要の原稿募集

当財団では「大阪国際児童文学振興財団 研究紀要」第34号の原稿を募集しています。提出締め切りは10月31日（土）です。 詳細は↓↓

http://www.iiclo.or.jp/06_res-pub/04_journal/bosshu.html

● クレジットカードでご寄付いただけるようになりました

当財団の運営を応援いただける個人、法人の皆さまからのご寄付を募っています。寄付金は、当財団が行う講座・講演会など、さまざまな事業経費に充てさせていただきます。ぜひ、ご協力いただきますようお願いいたします。

詳細は → <http://www.iiclo.or.jp/donation.html>

クレジットでの寄付はこちらから（外部ページ）

Syncable（シンカブル）「大阪国際児童文学振興財団」ページ

<https://syncable.biz/associate/19800701/>

● YouTube「大阪国際児童文学振興財団 公式チャンネル IICLO」

<https://www.youtube.com/channel/UCgPj7D2ReQ0J03zhMMLfuIA>

公開内容一覧は → http://www.iiclo.or.jp/m1_youtube/index.html

■ ----- ■
【 2 】 コ ラ ム
■ ----- ■

《 1 》 この本読んだ？ Yasuko's & Takeo's Talk

『魔女と花火と100万円』 望月雪絵/作 講談社 2020年7月 対象年齢：
中学生以上

あらすじ：長根中学校に通う杏は、全校集会において、生徒会副会長の成田君のコンクールで表彰された花火の絵を見た後、いきなり、先生から全員に、来年から文化祭がなくなるということを告げられて驚く。その日の帰り道、ノートに書いている魔女の物語世界を商店街の真ん中で空想しているところを成田君に見られ、杏のほうは成田君が泣いているのを見てしまう。次の日、成田君が杏の家に来て、もう予算がないという文化祭を続けるために100万円を貯める計画に参加することになる。

Y：この作品は文化祭がどうなるかという問題と、両親が別居していて母は自分のために犠牲になっていると感じている杏の家族問題とがうまく絡み合っていてできています。

T：杏だけでなく、成田君や、成田君のところに集まってくる生徒会会計の佐久間さん、クラスで派手なグループにいる偲与華、不登校の姫野君もみんな個人的に問題を抱えていて、個性の違う5人が文化祭の問題を考えていく中で、それぞれの問題の解決の糸口も見えてきます。

Y：だらだらと意味もなく続けていた文化祭に、先生たちが来年からはやりませんと告げる。もともと生徒たちの立案で始まった文化祭が一方的に中止されることに納得がいかない生徒たち。中学校では校則にしろ、行事にしろ、こういうことはよくあるのではないかと思いながら読みました。

T：そうそう。そして、その解決法が具体的でとてもわかりやすい。中学生はこれを学校の中で生きるためのマニュアルにできるんじゃないかと思いました。僕は「ポスト全共闘世代」で、東京の公立高校に入ったら、学校が崩壊に近い状態だったから、この本みたいに、職員室の中に積極的に入っていく手法でさまざまなことを乗り越えました。

Y：なるほど。反抗しているだけでは何も築けないということに気づき、状況を客観化し、相手の立場を考えることができることの大切さが伝わります。

T：文化祭を続けるために、まずは100万円を貯めようとするところもおもしろかったです。中学生がお金を稼ぐことは難しいけれど、お金の貯め方が具体的に書かれていてリアルに感じました。そして、これは、杏と偲与華の共通の愛読書がお仕事小説ともいえる『魔女の宅急便』だということとも重なります。

Y：私が印象に残ったのは、杏が両親に立ち向かうところと、成田君が先生と話し合おうという提案に反対して外に出ていったときに、杏が追いかけて成田君の思いを言葉にしようとするところです。また、地域おこしが題材になっている点もいいなと思いました。タイトルは、タイトルどおりのことが書かれているといえそうです。ややイメージがわきにくいようにも思いました。

T：第60回講談社児童文学新人賞佳作受賞作。今後の作品も期待できます。

* 今回のゲストは当財団の宮川健郎理事長（T）です。

《2》イーハトヴ周遊 宮沢賢治の童話を読破する

第60回「気のいい火山弾」

稜（かど）のない石

前回メルマガ（NO.119）の本欄「イギリス海岸」には、〈第三紀偶蹄類の足跡標本を採取〉するシーンが出てきます。賢治童話には地質学的時間とでもいうような時間軸の物語があります。本作「気のいい火山弾」もその一つです。

「ベゴ」とあだ名された大きな黒い石が、ある死火山のすそ野のかしわの木のかげに座っていました。ベゴはく稜がなくて、丁度卵の両はじを、少しひらたくのばしたような形で、からだにはくならぬに二本の石の帯のようなものが巻かれています。一度も怒ったことがないという温厚な性格から、野原の〈稜のある石〉やくおみなえし、蚊や苔までがベゴを馬鹿にする始末。それでもベゴは気にする風もなく、周囲を優しく受け入れていました。

ある日、野原に学者がやってきて、ベゴは〈実にいい標本〉〈立派な火山弾〉の典型として見いだされます。大英博物館にも見られないほどの標本で、〈東京帝国大学地質学教室〉へ送られることになったベゴは、〈私の行くところは、ここのように明るい楽しいところではありません。けれども、私共は、みんな、自分でできることをしなければなりません〉と述べて物語は終わります。

〈馬鹿〉と蔑まれ、疎まれてきたものが一転、外側からの権威付けによってその価値が見いだされる構図は、「度十公園林」（当メルマガNO.112参照）などにも共通するものです。常識では考えられない、度十の愚かな行為の積み重ねが〈本当のさいわいが何だかを教える〉価値ある公園を作り、それを〈十力の作用〉で説明した同作とは異なり、ここでは同じく馬鹿と呼ばれるベゴは最も長い地質学的時間を生きてきたものとして、あらゆる事象を知悉しているかに見えます。

ベゴが出世（価値の可視化）を肯定的に捉えていないことは、先の言葉からもあきらかですが、その一方で、ことの顛末を理解してくだまってため息ばかりついでいける稜のある石には、世俗的な成功に一喜一憂する庶民の姿が重なります。その状況のなかくだまってわらっているベゴからは、人間の論理や権威とはかけ離れたもの、それらを超越する存在としての一面が透けて見えます。晩年の「雨ニモマケズ」に通じるキャラクターが既にこの頃、造形されていたといえるのかもしれませんが。（ペ吉）

（本文の引用は、新潮文庫版『注文の多い料理店』によりました。）

《3》子どもの本の珠玉のことば 14

なにを べんきょうしたら タツヤくんは いきのこれたか ぼくは さがしているんだ。

（「べんきょう べんきょう べんきょうしなさい」『さがしています』アーサー・ビナード/作 岡倉禎志/写真 童心社 2012年7月 p.26）

『さがしています』は、広島平和記念資料館所蔵のものたちのつぶやきを、アーサー・ビナードが詩として書き、岡倉禎志が写真を撮影した絵本です。8時15分で止まった時計、中の食べ物が炭になったお弁当箱、原爆のために腰かけていた人が影になってしまった銀行の石段など、14のものが選ばれています。

冒頭で紹介したことばは、巻末のプロフィールによると、中学生の山本達也くんの帽子で、山本くんは校庭で被爆して9月16日に亡くなったということがわかります。本文の詩では、大人たちに「べんきょうしなさい」と言われ、中学に通っていたタツヤくんが、校庭で被爆した様子が帽子の視点で語られ、帽子は「頭ばかり まもっても いきのこれない」と言い、「なにを べんきょうしたら タツヤくんは いきのこれたか ぼくは さがしているんだ」と言います。

帽子に、被爆した恐ろしさを伝えさせるだけでなく、当時の学問のありよう、大人の責任、人間の愚かさ、原爆から私たちは何を学ぶべきかを考えさせるところまでを語らせるところに、アーサー・ビナードの詩の独自性があります。戦争を知らない世代の大人たちが子どもにいかん戦争を伝えていくのかは、私たちにとって大きな命題ですが、この本を始めてみたとき、「一つの新しい語り方」だと思いました。

写真は石段を除いてすべてのものが広島の「議員石」の上のにせられて撮影されており、時間、空間を超えて、「戦争と平和」を考えさせる普遍的な「場」がこの本だと読むことができます。（Y）

《4》 行って来ました！

明石市立文化博物館で8月30日まで開催されている夏季特別展「シルバニアファミリー展」に行ってきました。「シルバニアファミリー」は1985年に発売されたドールハウスのシリーズです。森の中にあるシルバニア村（「森林の」という意味の英語 silvan が由来）で暮らすウサギやクマなどの動物ファミリーの人形や、家、家具、道具類、車、衣装など様々なものが作られています。この展覧会では約1200点が年代を追ってずらりと展示されており、35年間の軌跡をたどることができます。

1985年当初は1900年代初頭のアーリーアメリカンをイメージデザインされた1種類の家、9ファミリー、11種類の家具から始まりました。人形は子どもの手のひらに収まるサイズで、キャラクターひとつずつには名前がつけられていません。子どもが自由にストーリーが作れるようにとの解説に、なるほどと思いました。家具や道具類などは、とても精巧に作られています。

年代を追うにつれて、人形の顔が丸みをおびて「かわいく」なっているのがおもしろく感じました。現在は、ファッションシリーズやタウンシリーズなど少し都会的なものもあります。スーパー、パン屋、ケーキ屋、洋服屋、ワゴンカーなどのいろいろなお店、学校、幼稚園、病院、乗用車など、バリエーショ

ンが豊富で、いろいろなごっこ遊びが考えられます。シリーズは世界 60 カ国以上で遊ばれているそうです。

見ていると、コレクションしたくなる気持ちが理解でき、姪と飽きずに遊んだことが懐かしくなりました。(K)

■ ----- ■
【3】全国のイベント紹介

● 「2020 イタリア・ボローニャ国際絵本原画展」

会 期：8月22日(土)～9月27日(日) 月曜休館

時 間：9：30～17：00 料 金：有料

場 所：板橋区立美術館

主 催：板橋区立美術館、(一社)日本国際児童図書評議会 (JBBY)

上記イベントの詳細およびその他の講座・講演会、展示会、公募情報については、こちらからご覧ください。↓↓

http://www.iiclo.or.jp/03_event/04_other/index.html

※イベントの開催内容が変更される可能性があります。最新情報は主催者へお問い合わせください

※イベント情報をお送りください。当財団HPに掲載させていただきます／

■ ----- ■
【4】プレゼント

今号のコラム《1》「この本読んだ？」で紹介しました『魔女と花火と100万円』を1名の方にプレゼントします。ご希望の方は、メールで件名「メルマガN0.120 プレゼント希望」とし、(1)お名前 (2)郵便番号・住所 (3)電話番号 (4)メールアドレス、よろしければ (5)このメルマガのご感想をお書きのうえ office@iiclo.or.jp にお送りください。

締切は9月10日(木)、当選発表は発送をもって代えさせていただきます／

編 | 集 | 長 | の | つ | ぶ | や | き |

— | — | — | — | — | — | — | — | — |

いつもと違う夏ながら、早朝にお墓の掃除と花と線香、実家の仏壇前にお膳、ホオズキ、キュウリとナスの馬と牛を飾れば例年のお盆の風景に。ここに孫たちがそろえば申し分ないところですが、次の正月までにはコロナが収まって、会えることを願いつつ、手を合わせました。(TA)

みなさまのご意見・ご感想をお聞かせください。下記メールアドレスまでお願いします。

原則として返信はいたしませんのでご了承ください。

●このメルマガジンは、ご登録いただきました皆様に配信しています。

●配信の登録・解除・変更は、

http://www.iiclo.or.jp/m1_magazine/index.html パソコンからどうぞ

●このメールの送信アドレスは配信専用です。

●記事の無断転載はご遠慮ください。

発行：一般財団法人 大阪国際児童文学振興財団 <http://www.iiclo.or.jp/>

〒577-0011 大阪府東大阪市荒本北 1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL : 06-6744-0581 FAX : 06-6744-0582 E-mail : office@iiclo.or.jp
